

TruPhase の導入(2) —アナログ再生における動作確認—

1. はじめに

TruPhase のアナログ再生における動作確認を実施しました。

2. TruPhase のアナログ再生における動作確認方法

接続は P&G のフェーダーと TruPhase を入れ替え、入力は、ZANDEN Model 120 からの RCA 入力を RCA3 の端子に入力し、出力は RCA 出力をアナログアキュライザー経由で Langevin 6V6pp アンプに入力することで再生を行いました。

すでに P&G のフェーダーで評価の固まっている次の音源を使用し、ZANDEN Model 120 の条件設定も既知の条件にしています。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG2367 (日本ポリドール)

ベートーベン：ピアノソナタ第 31 番変イ長調・第 32 番ハ短調

ウイルヘルム・ケンプ

キングレコード SKA-104

愛と自然の歌

倍賞千恵子

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・シオルティ指揮ウイーンフィル

harmonia mundi (Deutsche) KUX-3248-H

ミトマニア ベーレン・ゲスリン

3. TruPhase のアナログ再生における動作確認の結果

最初に気が付いたことは、位相反転のトグルスイッチを NORMAL の位置にすると音が出ず、REVERSE で正常に再生できることです。マニュアルには RCA 入力の場合、トグルスイッチでの位相反転は有効でないと書いてありますが、「音が出る、出ない」の記載ではありません。本件はメーカーに問い合わせることとし、以下は REVERSE の位置で聴いていきました。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929 の Bach の Sonatas & Partitas では、

ミルシュテインの艶のあるボウイングで、丁寧にバッハを表現していることが分りますし、豊かな音色が空間に広がる様も手に取るように分ります。

ドイツグラモフォン MG2367 のベートーベンのピアノソナタ第 31 番・第 32 番では、ケンプの緩急自在なダイナミズムを余すところなく表現してくれています。

倍賞千恵子では、ボーカルもバックも自然で奥行き感が感じられます。Model 120 の設定を逆相から正相にしますと位置関係が曖昧になり、音の焦点がぼやけますので、入力信号の位相を正確に反映していることが分ります。

LONDON KLJC-9180/9184 のワグナーのワルキューレでは、オーケストラの迫力と歌手陣のやりとりが位置関係も含めてリアルです。

harmonia mundi (Deutsche) KUX-3248-H のミトマニアでは、ボーカルはもちろんのこと、中世の古楽器である、撥弦楽器、擦弦楽器、管楽器、打楽器ともその質感がリアルに再現されます。Model 120 の設定を正相から逆相にしますと、ボーカルや古楽器類の位置関係が曖昧になり、音の焦点がぼやけますので、入力信号の位相を正確に反映していることが分ります。

4. まとめ

TruPhase は、ZANDEN Model 120 との相性もよく、これまでに聴いてきた馴染みの盤が、新しい魅力を発揮してくれることが分り、音源の位相の把握も容易です。位相反転のトグルスイッチの問題は引き続き調査します。

以上

註：

上記の位相反転のトグルスイッチを NORMAL の位置にすると音が出ない問題は、その後、メーカーの協力を得て解決しましたので、別途報告いたします。